

<平成 29 年 6 月 26 日発表>

祝！博多祇園山笠 ユネスコ無形文化遺産登録！ 『十一番山笠ソラリア』奉納・披露

～ソラリア西鉄ホテル京都プレミア-三条鴨川-の開業を記念し、
京都を題材とした、ダイナミックかつ豪華絢爛な描写をお楽しみください。～

- 西日本鉄道(株)では、平成 29 年 7 月 1 日(土)から 7 月 14 日(金)までの期間中、当社が運営する商業施設「ソラリアプラザ」の 1 階イベント広場「ゼファ」にて、飾り山笠「十一番山笠ソラリア」を奉納・披露いたします。
- 本年は、平成 29 年 4 月に「ソラリア西鉄ホテル京都プレミア-三条鴨川-」が開業したことを記念し、京都を題材として、表には牛若丸と弁慶のダイナミックな一騎打ちを、見送には豊臣秀吉の豪華絢爛な花見の様子を描写しております。
- 表(おもて)の標題...「邂逅洛中五条大橋段(かいこうらくちゅうごじょうおおはしのだん)」
現在、牛若丸(源義経)と弁慶の石像が置かれ、観光スポットとして人気の五条大橋。遡ること平安時代、ここで 2 人の運命的な出会いが果たされます。千人斬りの牛若丸と荒法師弁慶が主従の契りを結ぶまでの激闘の模様をダイナミックに表現します。
- 見送(みおくり)の標題...「京洛絢爛醍醐之花見(きょうらくけんらんだいごのはなみ)」
現在、「花の醍醐」といわれ、桜の花で有名な醍醐寺。遡ること安土・桃山時代、ここで豊臣秀吉最晩年の一大行事と言われる壮大な花見が行われました。この花見にかけた秀吉の情熱は相当なものであったと伝えられています。境内全体に 700 本の桜を植樹し、8 か所の茶屋を設け、約 1,300 人もの招待客をもてなした一世一代の豪華絢爛な花見の様子を描きます。
- 屋内に設置する「十一番山笠ソラリア」は、会場が吹き抜けである特性を活かし、天候を気にすることなくゆっくりとご覧いただけ、毎年多くの来館者の方にお楽しみいただいております。また、福岡市博物館のご協力による「山笠歴史 紹介パネル展示」も同時に開催いたしますので、ぜひソラリアプラザ 1 階ゼファに足を運んでいただき、博多を代表する祭である博多祇園山笠の迫力をご鑑賞ください。

■ 平成 29 年度博多祇園山笠 飾り山笠「十一番山笠ソラリア」奉納・披露について

【スケジュール】	平成 29 年 6 月 27 日(火)～30 日(金)	飾りつけ
	7 月 1 日(土)～7 月 14 日(金)	飾り山笠披露
	7 月 1 日(土) 10:00～	御神入れ
	※場所はいずれも、ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」にて行います。	
【場 所】	ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」(福岡市中央区天神二丁目 2-43)	
【名 称】	「十一番山笠ソラリア」	
【標 題】	表	:「邂逅洛中五条大橋段(かいこうらくちゅうごじょうおおはしのだん)」
	見送	:「京洛絢爛醍醐之花見(きょうらくけんらんだいごのはなみ)」
【製 作 者】	表	:博多人形師 置鮎 正弘(おきあゆ まさひろ)氏
	見送	:博多人形師 小嶋 慎二(こじま しんじ)氏
	山大工棟梁	:日高 保行(ひだか やすゆき)氏

【その他イベント】 山笠歴史紹介パネル展示(協力:福岡市博物館)
〔展示場所〕 ソラリアプラザ 1階イベント広場「ゼファ」
〔展示期間〕 平成 29 年 7 月 1 日(土)～14 日(金)



(参考) 飾り山笠「十一番山笠ソラリア」 標題解説

表:「邂逅洛中五条大橋段 (かいこうらくちゅうごじょうおおはしのだん)」

この物語は、能では「橋弁慶」として江戸時代前期から知られる人気の演目でした。
鞍馬山に預けられていた源義経、幼名牛若丸(遮那王)は、多年の修行で鞍馬天狗から武芸を習い、平家に討たれた父義朝の追善供養と称し洛中の五条にて夜陰に乗じて千人切りをして、平家討伐の味方を探していました。一方、比叡山西塔に住む武蔵坊弁慶は鬼若と称された荒くれ僧で、洛中の五条天神社に丑の刻(現在の午前2時の前後)詣をおこなっており、その満願の日に因縁の二人が大橋の上で出会います。弁慶が得意の大長刀を振りかざして打掛りますが、宙を舞うようにして見事に牛若丸にかわされ翻弄されます。ついには弁慶が降参し、身の上を明かしあった末に主従の契りを結びます。その後の兄源頼朝による源氏復興での活躍から平泉への逃避行の物語へつながる、二人の運命的な出会いの場として五条大橋が描かれています。

現在、鴨川の五条大橋のたもとには、この話にちなんだ牛若と弁慶の石像が置かれ、観光スポットとなっています。また、二人に関連する観光地として、鞍馬寺は東光坊跡に義経公供養塔がひっそりと安置され、京都の北東を守る霊峰比叡山の延暦寺西塔では、弁慶が担ぎ上げたとされる「にない堂」(常行堂・法華堂)を観ることができます。

(※邂逅:思いがけなく出あうこと。偶然の出あい。めぐりあい。)

登場人物:源義経 幼名牛若丸(遮那王)・武蔵坊弁慶・源頼朝・常磐御前・鞍馬天狗



見送：「京洛絢爛醍醐之花見（きょうらくけんらんだいごのはなみ）」

醍醐の花見は、1598（慶長3）年3月15日に京都醍醐寺で開かれた豊臣秀吉最晩年の一大行事で、槍山を擁する境内全体に700本の桜を植樹し、配下の武将に八か所の茶屋を設けさせ、約1,300人の招待客をもてなしたと伝えられています。その様子は桃山時代に描かれた国立歴史民俗博物館所蔵国重要文化財『紙本著色醍醐花見図』（六曲一隻）等に描かれ、秀吉の家臣、太田牛一が書き残した「太閤様軍記の内」に書き残され、戦国末期の京洛のあでやかな桃源郷の様をしのぶことができます。

花見の場では、女性たちはかこの模様や金の摺箔を施した艶やかな打掛を装い、女房「松の丸殿」が差し出す緋色の傘のもと、秀吉と嫡男秀頼が満開の桜の園路を茶屋へと進み、淀殿（茶々）と北の政所（おね）がそれに続きます。境内の会場は桐文が染め抜かれた幕で仕切られ、急づくりで建てられた茶屋には馬や鷹の絵が描かれ、前後には山水を引いて池や庭園も造られました。籠を使って道具を運ぶ「ふごおろし」という仕掛けも演出されています。

茶屋では金天目を含む茶器や贅沢な食器がしつらえられ、諸国の大名からもたらされた名産品による豪華な食事が振舞われました。

絢爛な京洛のおもてなし文化を象徴する太閤の催した醍醐寺での花見は、日本人の好むお花見文化の基層となり、現在の醍醐寺では毎年4月の第2日曜日に「豊太閤花見行列」が催され、京都市内では多くの花見の名所が、内外からの観光客を集めています。

また、洛中には秀吉を祀る「豊国神社」、秀吉の妻である北の政所（おね）が暮らした「高台寺」やその塔頭「圓徳院」、淀殿と豊臣秀頼が開基の「養源院」など、豊臣家ゆかりの名所が東山にあり、歴史ファンの参詣を集めています。

登場人物：豊臣秀吉・豊臣秀頼・松の丸・淀・北の政所

北の政所



松の丸
豊臣秀頼
豊臣秀吉

29)

この件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター（TEL0570-00-1010）まで